

オーディオ実験室収載

ブルーレイレコーダー録画再生の高音質化

1. 由来

PC オーディオ、ネットワークオーディオ、CD 再生などの高音質化のレビューについて報告してきていますが、今回はブルーレイレコーダー録画再生の高音質化についてレビューします。

2. ブルーレイレコーダー録画再生の高音質化対策

ブルーレイレコーダーは PANASONIC の DMR-BW830→DMR-BZT910→DMR-BZT9000 を経て、現在は [DMR-UBZ1](#) を使用しており、機種変更毎に音質は向上してきています。電源は[中村製作所のアモルメット組み込みの電源ボックス NPX-001](#) から採り、付属のケーブルは市販のフェライトコアを通してあります。インシュレーターはインフラノイズのマグナライザーを使用しています。

DMR-UBZ1 での録画再生においては、リマスターの設定で 192KHz にアップサンプリングし、[インフラノイズのデジタルリベラメンテ](#) で [Sonica DAC](#) に送り込んでいますが、Sonica DAC の S/PDIF デジタル入力端子には[インフラノイズのデジタルアキュライザー-DACU-500](#) を装着しています。

DMR-UBZ1 には [USB パワーコンディショナー](#) という付属品があり、このものは DMR-UBZ1 の USB 端子に挿入することにより本体内部の電源ノイズを低減して音質改善が図られるというもので、使用してみると確かに効果はありました。

DAC は Sonica DAC を使用していますが、Sonica DAC での対策は、PC オーディオの高音質化(4)で述べているとおりです、

3. まとめ

ブルーレイレコーダー録画再生の高音質化対策は何ととっても上記の機種変更が大きな要因ですが、その他電源、ケーブル、インシュレーター、アクセサリなどに細かい配慮を行うことの効果が重要です。

以上